



源氏物語卷中

丁六しむ

丁あうらのなほみ

日かえ家

日のくま

日みゆい

日まはる

十九あらのうらま

古一かへん

古二かへん

古三かへん

古四かへん



丁七

玉たま

日あうらのなほみ

日ここのなほ

日あらし

日あらし

十八あらし

二十あらし

古二かへん

古三かへん

古四かへん

十六の雲のついで

七七のあふま

あつちのあつち

十六し女

けきし女とくしめとつらふりかきかきの時ときのまつらとらふり
 と大内おほうちつとゆとめさせ流し時ときのまつらとらふり
 ちうららの女おんなとせりて天人てんじんのまつらとらふり
 いきりたる舞まいとて大内おほうちへ下一人しもひとをまつら
 うららふりせらふらん一法いちぽうの流しやうら
 めたとのこまのつとむとせりてまつらとらふり
 よ志しのひてのそまて西せい流しとれいじういじうとらふり
 着きくたしやうららふり一とめを志しのひて
 一とめを志しのひてとらふり一とめを志しのひて
 志しとれり一とめを志しのひてとらふり一とめを志しのひて
 ん然ぜんも年としのつとむとせりてまつらとらふり
 をとめこつとらふり一とめを志しのひてとらふり

かたきよふれいもふけいぬぬきし

こゝろ見ゆいーゆりしむごりあなりあま

かひそいけきふのしそそたもやゆ

日くむのねれゆーらけーも

ねいむさくじとめつまき大田みさうれ徳留の

とひいさうさうらゆきそらんーのゆみあ

あひのとり中殿のりう君のらうけタまらるゝはきさう

とまらるゝはきさうはきさうはきさうはきさう

あまのいのはきさうはきさうはきさうはきさう

神の神樂のあまのいはきさうはきさうはきさう

けきさうはきさうはきさうはきさうはきさう

うらとたらの内大臣のゆじとめ十四しうらふ成爲ん

ーしうらのちきさうのしとめたしうらふ成爲ん

ゆきさうはきさうはきさうはきさうはきさう

あまのいのはきさうはきさうはきさうはきさう

くひさのりそ姫君とつりうらふ成爲ん

よひさのりそ姫君とつりうらふ成爲ん

ねのねとめふ雲井のうられ我しやとまねわ

ふなうめーとめふ雲井のうられ我しやとまねわ

ゆきさうはきさうはきさうはきさうはきさう

ねいむさくじとめつまき大田みさうれ徳留の

そのゆきさうはきさうはきさうはきさう

雲井のうら 縁さ巻

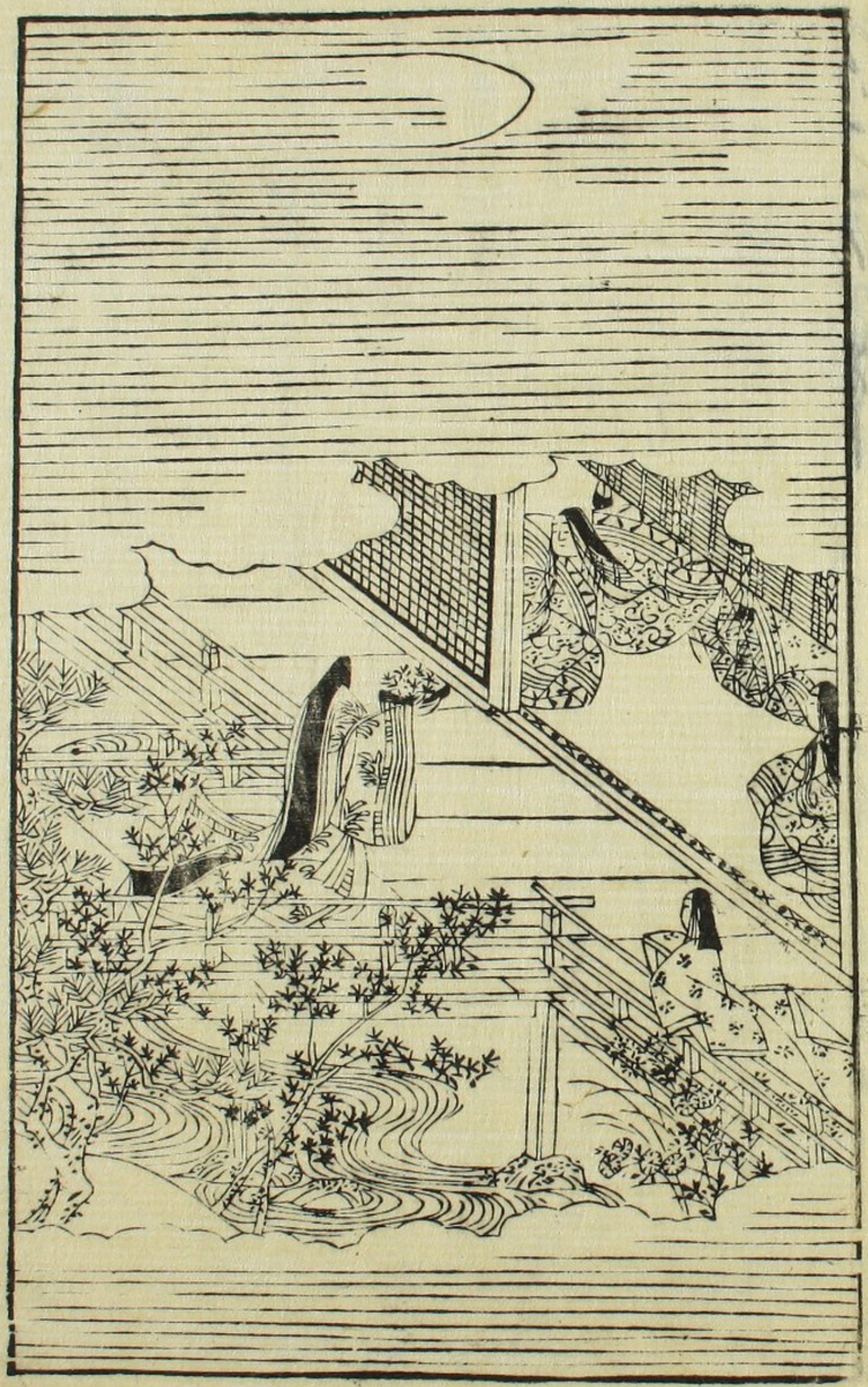
ゆきさう

ねいむさくじとめつまき大田みさうれ徳留の

ゆきさうはきさうはきさうはきさうはきさう

うれしうま〜うらつ海もせあおおきく冬も
う〜うらうら〜して冬枯の貯入のう〜うらうら
松雪のあ〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜

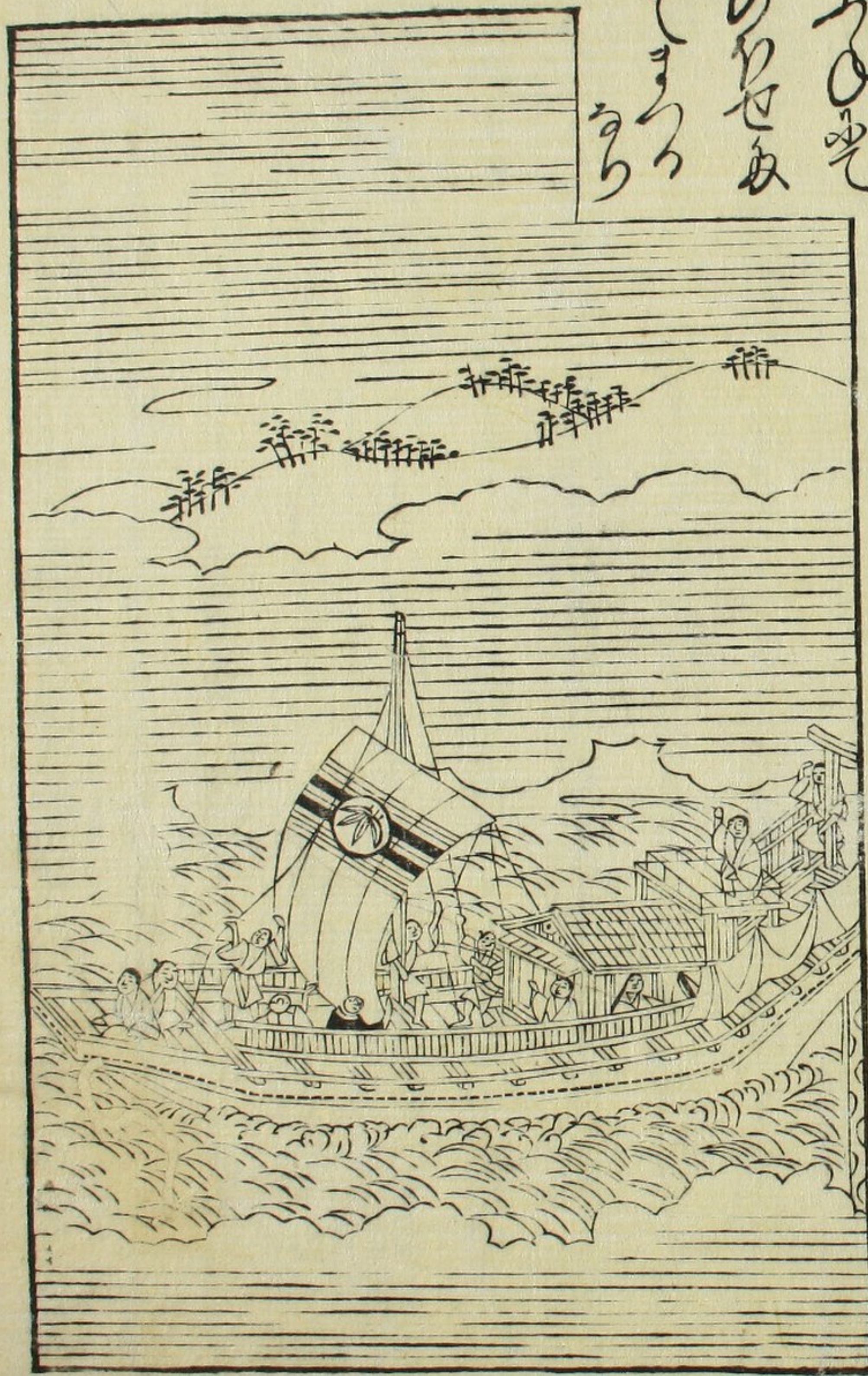
あつ海〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜



うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜
うらうら〜うらうら〜うらうら〜うらうら〜

あつたえしとく一霧のふすれを母かひのあま
 かふるくはくひのあま右をしらすくく
 かみくいていふてこのあまをせしめて
 しよまの糸出のまのたぬくさるあま
 この娘君の出来はめであれたるうつせられた
 けく入つとあまをくくおのまひあまに
 ねらもかきまをくくあまのあま
 頼りぬれとあまはあまのあま
 つきまをくくあまのあまのあま
 あまのあまのあまのあまのあま
 してまのあまのあまのあまのあま
 かりあまのあまのあまのあまのあま
 とうかまのあまのあまのあまのあま
 ここのあまのあまのあまのあまのあま
 かんあまのあまのあまのあまのあま
 くのあま

のりせぬ
 てまつる
 くら



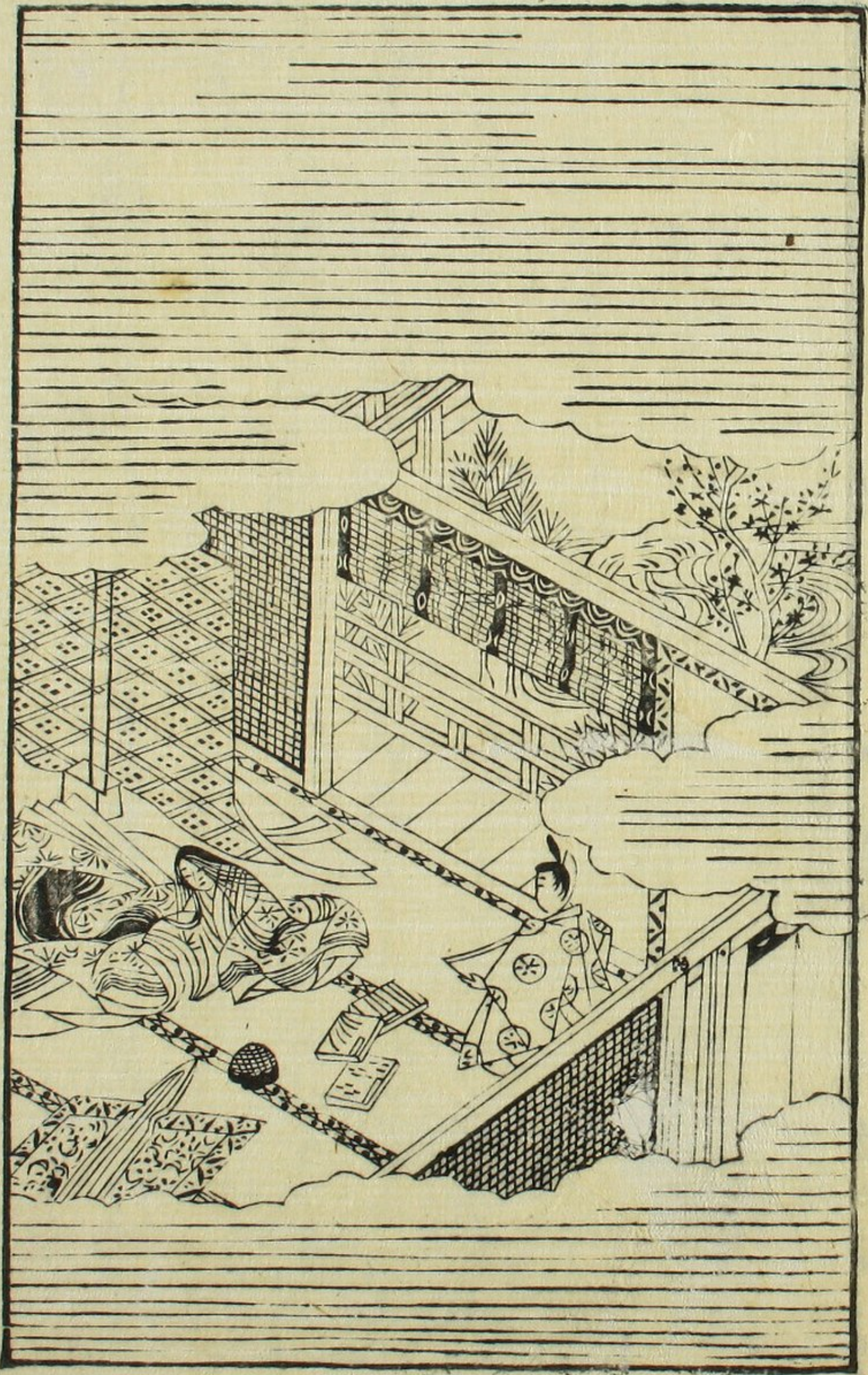
うへにみねをうきしにりーわしをうららの中へ此
しるやうにわきかへりしにみこみうたなまあ
しこく思ひをうらうらわおにうらああり
とくおとくしとく思ひとくまのしとく思ひと
れ見たりけくおまのしとく思ひとく思ひと
そくしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
ね秘事しとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
そくしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
とく思ひとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
て若くしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
ね秘事しとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと

秘り秘りわいあまのしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと

秘事 とうのののの

世をうらうらとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
すの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
へみあせうし時のちとく思ひとく思ひと
あつとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
すの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
ね秘事しとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
そくしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
とく思ひとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
て若くしとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと
いすの秘りわいあまのしとく思ひとく思ひと
ね秘事しとく思ひとく思ひとく思ひとく思ひと

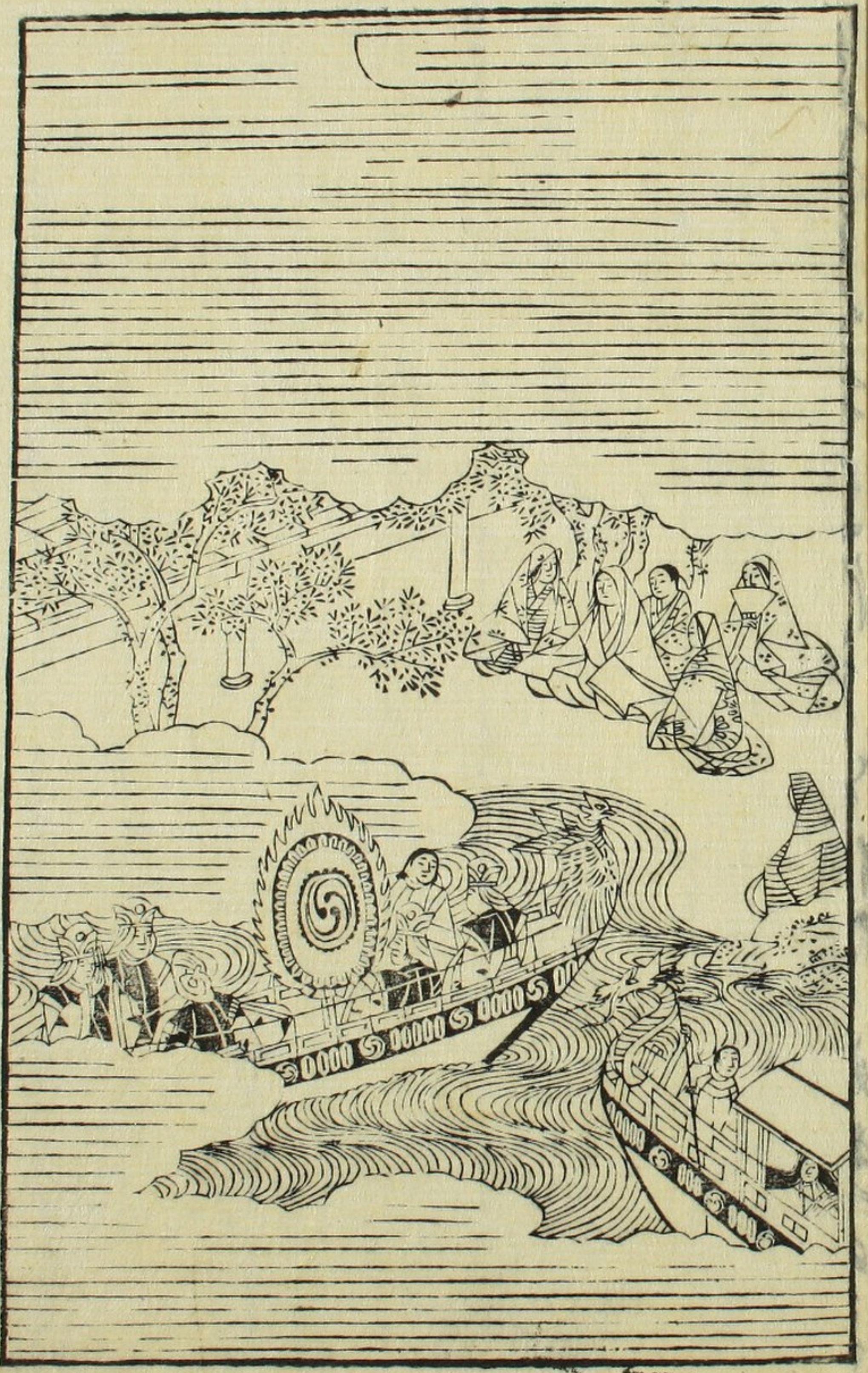
とうめいれいしひの餅くろんのもま禁のとう
 源氏をたてまつらせしひーありそのおりの所
けいふきこわりのやういざーかの
けいふきこわりのやういざーかの
 うも水さけぬらいつけのめいんーの
 したあらしささけそさくーの
 こもせしひーありけいさくーとをあをせて物さ
 れしひさくーのけいさくーのー



相様 まうらうのやうい

けいさくこくふとさくひの昔の院のまーのんさくしひさ
 くとく写巻りし相様経じていうめーと大法會

仁王經大般若經とともなり枯しのしゆ文の六条
のらんめてしとこなるか路ふまはむんよとて
れとを佛はたそてまつり路ふとて中交の
へたてくつらつせあふとれとふらつらとんか
しとに烟とせゆいてちぢはちりつひの花あり
さうらとてしてふらつらとてふらつらとて
あしとたのいふらつらとてふらつらとて
せらつらとてふらつらとてふらつらとて
らつらとてふらつらとてふらつらとて
しとてふらつらとてふらつらとて
ねはつらとてふらつらとてふらつらとて



心ゆきたのりゆらり一真の是の喜入
ほふかまらつらとてふらつらとて
けふかまらつらとてふらつらとて

あゝいふもなきわじりのせひをよ
 人のきこふたふゆの物と

あうらうらうら

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

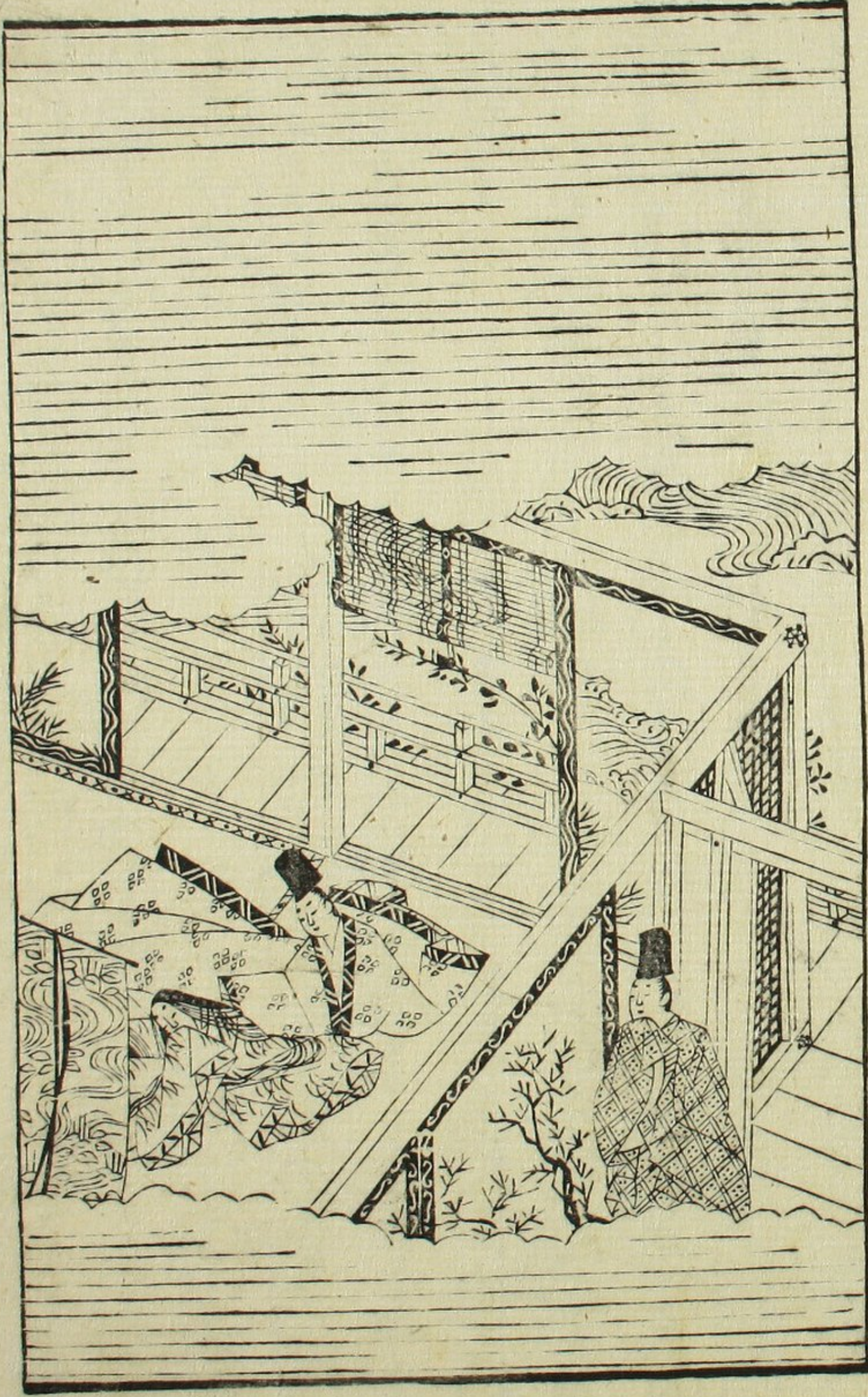
いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

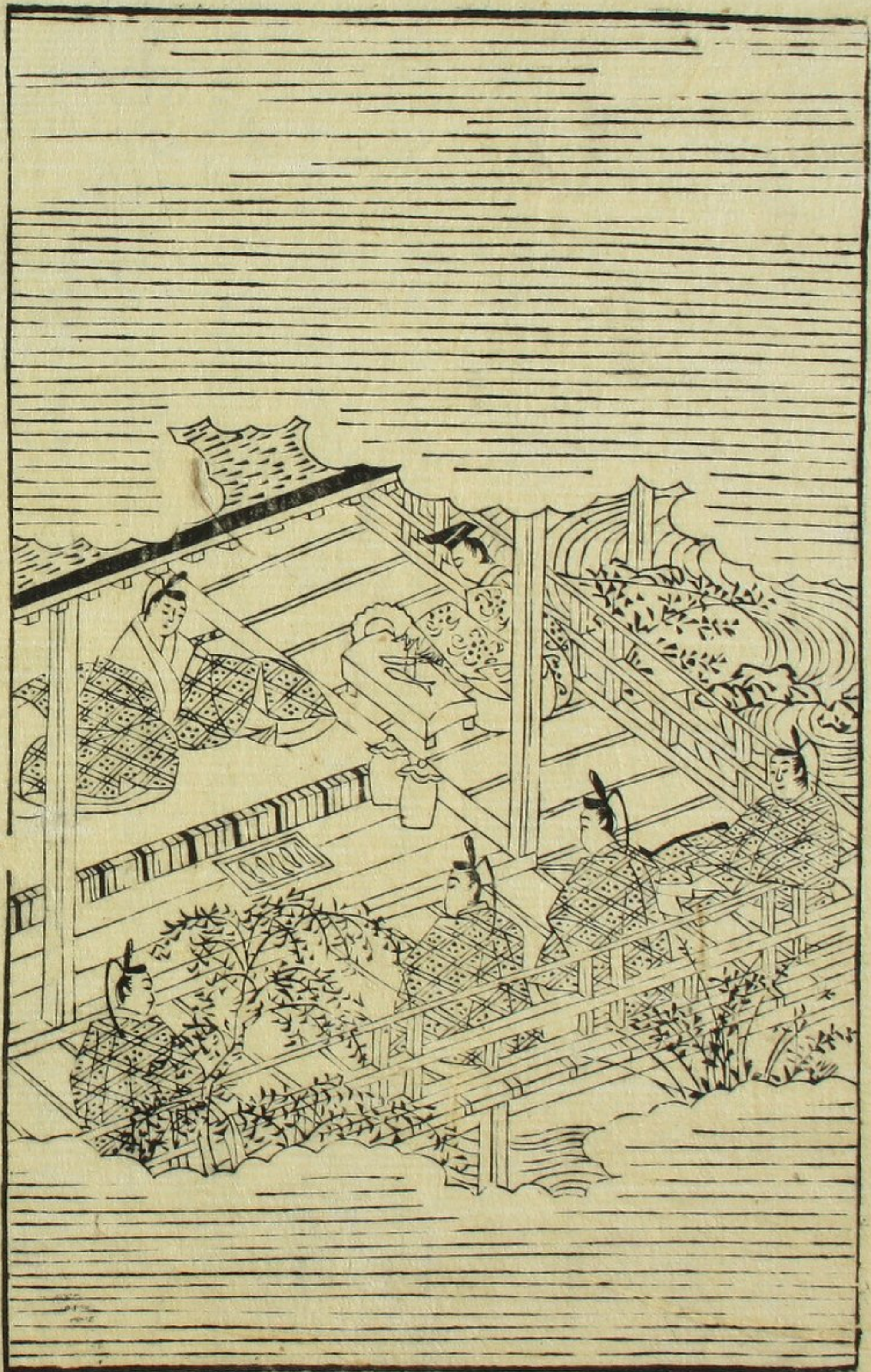
いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

いふはあはれなるものなりとて
 うらうらと海をわたるはあはれなり

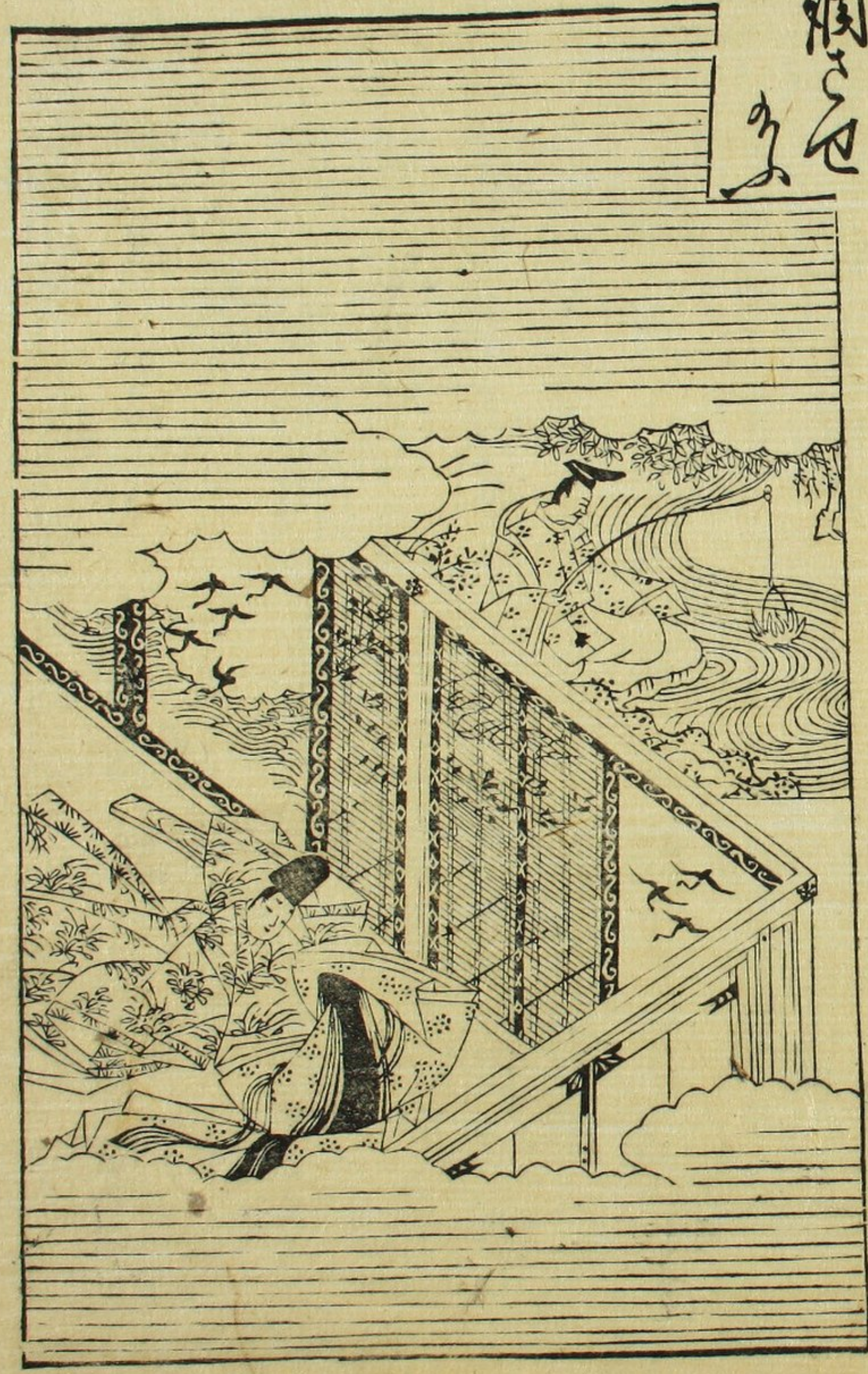




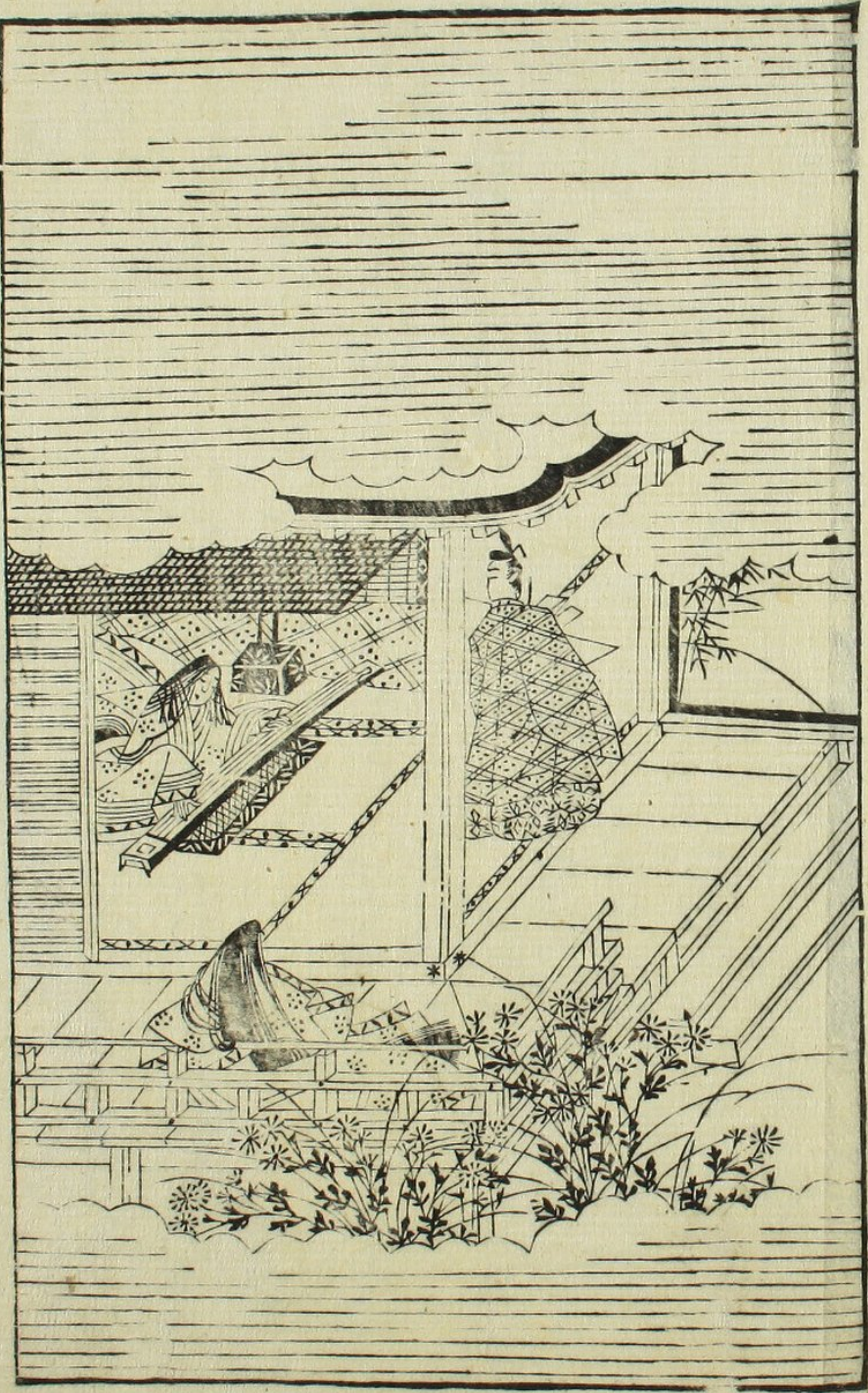
舞火 まゐり まゐり まゐり

けきか^{けき}のつとわと云事^{こと}らん^{らん}ま^まう^うく^くと^とは^はま^まい^い
 て^ても^もく^くの^のま^まい^いと^とら^らし^しの^のま^まい^いあ^あら^らは^はる^る
 け^けら^らの^のま^まい^いの^のま^まい^いあ^あら^らは^はる^るま^ま
 と^とは^はい^いめ^め入^入て^てな^なの^のま^まい^いあ^あら^らは^はる^るま^ま
 ら^られ^れあ^あら^らは^はる^るま^まい^いあ^あら^らは^はる^るま^ま

舞火 まゐり
 まゐり



こころをわらへんー板野りまのわさきんーあま
 風のさあけひうあまを清ひーまり中へも
 別乃水くえにまーまーてまの風のさあけ
 しうりめを清きさうゆり清ふとゆれんーとら
 てさうくーたかりてまをがのま
 ーしてわりの内寄りぬ
 にがうらうらたののさくおののよ
 とつあふまよーむらちて

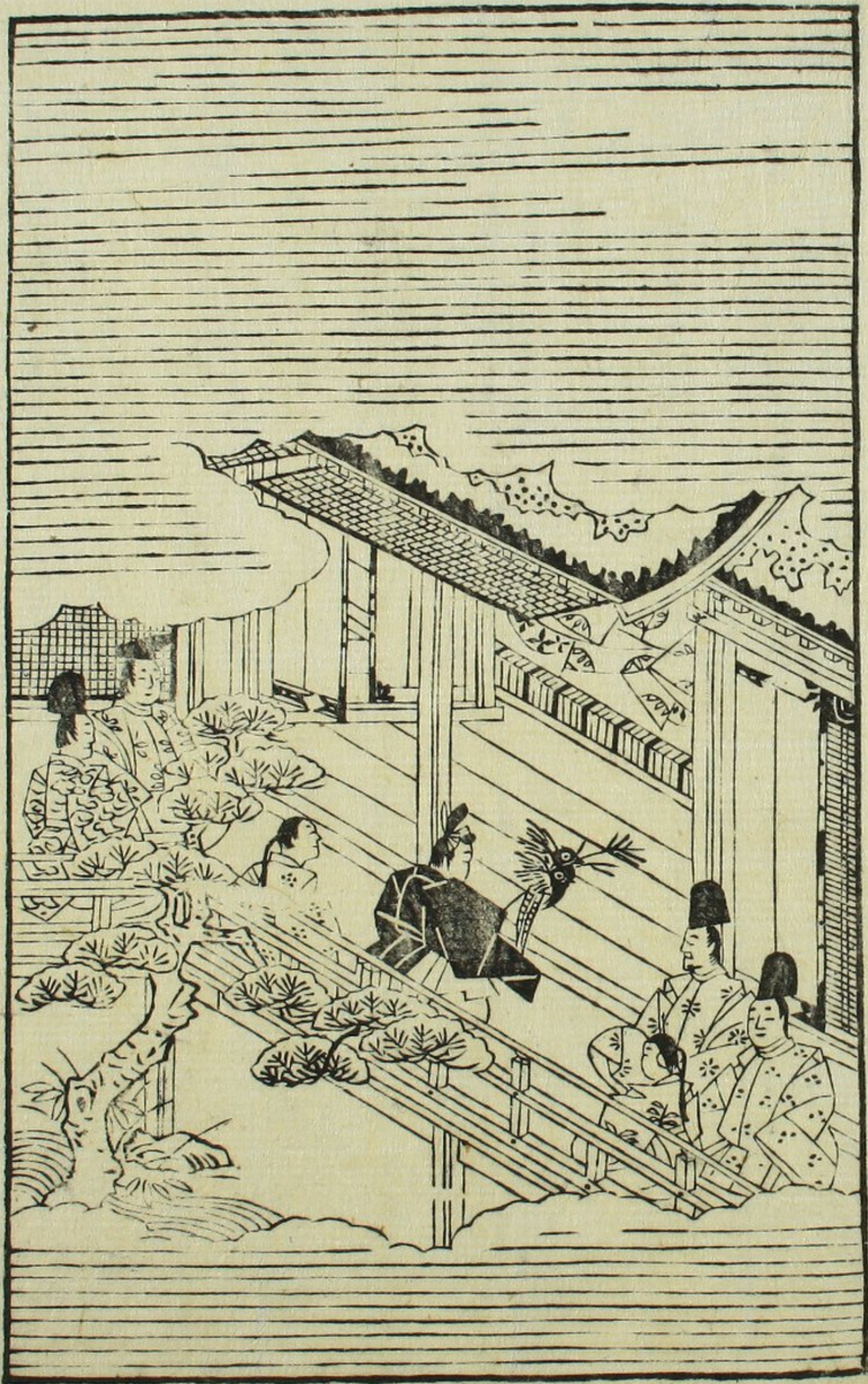


こころをわらへんー板野りまのわさきんーあま
 ののち
 板野りまのわさきん
 風のさあけ

源氏物語の巻

あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし



源氏物語の巻

あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし
あはれなるものぞかし

驚くはるれいそのことん

みゆき

よーん

ゆき

かるたわと

あつらふらふくー源氏のおとこみゆきの西條
かり

蘭

あつらのきん

此書からしう後ごつやの書本は左條の御あり

あつらの内條のこれいさひをうられゆきと梅

つと流るそあーのさうたさうーあつらふらふ

ゆき

にきー燈の露ーやあつらふらふ

あつらふらふけいさひしりらと

こもくゆきーあつらふらふしう後とあつらふらふ

源氏のじうれゆきあつらふらふのとれゆきあつらふらふ

園白まらかのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

れゆきあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

夕さつこのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

しうゆきあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

もゆきあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

まゆきあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

へさつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

つと流るそあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

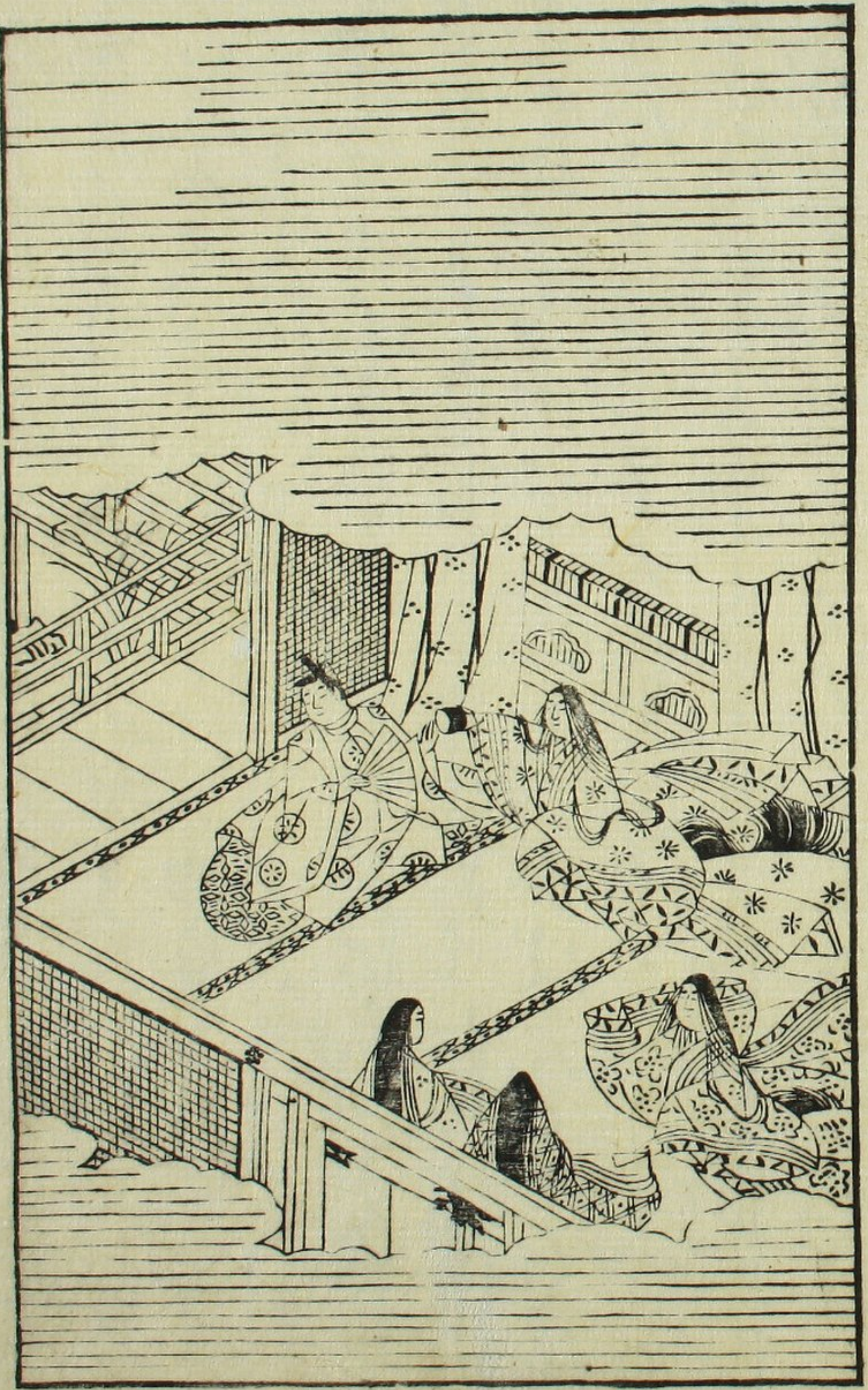
さつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

いひさつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

しうゆきあつらふらふのゆきあつらふらふのゆきあつらふらふ

こもく

内さのどめは別殿のわあひ武装のえれ大いあき
 てせうにほしたありくにあからりあゝさしゆ
 こそ内子ともむもあまこたも〜多しいさねとも
 てあ〜とたぬいぬ〜物のけりりりりいほひ
 ぞいぬもろくた〜た〜〜る経るうあふと
 さあろのゆ〜らゆ〜色あつらるやうなるり
 けむろ〜め〜い〜め〜い〜又た〜こたぬい
 あ〜ん〜は〜い〜こ〜こ〜や〜ま〜ぬもあ〜あ
 こ〜の〜と〜や〜そ〜り〜ゆ〜の〜や〜ち〜え〜と〜と
 流いて法た〜り〜ゆ〜〜と〜と〜と〜と〜と
 っ〜の〜物〜の〜つ〜の〜や〜た〜さ〜が〜か〜ひ〜り〜り
 さらしてぬい〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 らねや〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 がとふ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 あり



そまららふとくうとま〜ららるるのしゆんしゆん
ぬりつくとくしるるれりふいこまは

たがらのいふ

物のり

うごじ

年とりつるの付へ〜はるるなり又はたねとひきらる
ごりふ、黒名なりひひきのらり〜に〜ちりて
見えぬらん〜なとのい〜ぬはらう〜のあ
ら〜らめごと〜あ〜ていあ〜とが〜
あ〜た〜くめやとま〜そ〜後よの関白〜
肉付のく〜おのまんご〜りけ〜い〜ゆ〜
ひ〜ゆ〜らう〜ぬ〜ひきのあ〜の〜い〜
らうの中おと〜し〜らひあ〜らう〜肉付とわ
い〜ら〜もあ〜ら〜と〜あ〜ら〜い〜は〜

たもふとも君はあ〜〜かりきうら

いともああ乃いり〜みし孫と

とよんだて〜つら〜らひあ〜んの〜と〜ぬ〜
そい〜らの中おと〜いひ〜ら〜の〜と〜
ごとわらう〜ら〜ら〜本とあ〜ら〜の〜
め〜た〜ら〜と〜ら〜ていひ〜ら〜ら〜

十八梅枝

はまき梅くえんや云奉〜正月晦日のち源氏のゆ〜
れ六てうの院〜たきおあ〜ら〜
あ〜の腹のい〜とめ〜ら〜母弟りあ〜い〜
ま〜ら〜と〜と〜い〜く〜ら〜い〜と〜
巴あ〜ら〜ん〜の〜ん〜か〜あ〜ら〜の〜
源氏〜ら〜つ〜て〜あ〜ら〜い〜ら〜

花の結えなむぬゆゑ
 しとあやまりとていふやいりつらん
 こゝろこころいへらん—きんろをいへらん—
 かゝれぬとていふぬいへらん—

花のあ—いとおかしく—りやうかた

こゝろあり梅—りやうかた—きんろ—いへらん—
 ちのけやせぬ—いふきんろ—いへらん—
 るあ—いへらん—いへらん—いへらん—
 してゆくちるりたまもの名—いへらん—
 ぬきゆとあ—いへらん—いへらん—
 りありとせむもぬき—いへらん—
 の—いへらん—いへらん—いへらん—

じうえのきんろ—いへらん—

十九 花の裏まふ

はきぬのう—いへらん—
 とつとつこのちのけ—いへらん—
 花—年—とつとつ—いへらん—
 ばい—いへらん—
 くの所を—いへらん—
 一—中—いへらん—
 ぬき—いへらん—
 いろ—いへらん—
 一—日—いへらん—

たよひ給てしじいしえんといふにあらね
しるすかゝるしほしうきしうらの花
まらふすたしむきしきたる
ゆんちり

いふはるのうらなひのうらなひ
たのしむもやうたふらあつて
おぼたかへしうらなひのうらなひ
つらうらなひのうらなひのうらなひ
まらふすたしむきしきたる
ゆんちり
いふはるのうらなひのうらなひ
たのしむもやうたふらあつて
おぼたかへしうらなひのうらなひ
つらうらなひのうらなひのうらなひ
まらふすたしむきしきたる
ゆんちり
いふはるのうらなひのうらなひ
たのしむもやうたふらあつて
おぼたかへしうらなひのうらなひ
つらうらなひのうらなひのうらなひ
まらふすたしむきしきたる
ゆんちり



西宮のまきつとそそのりさかむかひなりと中納言
 うかひらいつくもなほのまきの西宮の
 西宮のまきつとそそのりさかむかひなりと中納言

初章のむつとたけりあらりいそのりあかんとす
 いかあふの兼隆院りてたけり田をいさかひん
 こそあねあてうのかんれはふまひせんかん
 ねるまをいさかひとあかんとあかんとあかんと
 ねかんを早下して左路左路の西宮りせり
 たり兼隆院の院りていうとさかむかひの西宮
 となるとりせり院の西宮りいさかひとあかんと
 せりあかむの西宮りいさかひとあかんとあかんと

二十 兼隆院

是と兼隆の事と云事いさかひとあかんとあかんと
 冬しりらりの大ねれあかむとあかむといさかひ
 見二ごりあかむりせりあかむとあかむとあかむと
 西宮のかんれはふまひのひれいさかひとあかんと

長崎の海軍工廠の歴史

長崎造船所

長崎造船所

長崎造船所の歴史

長崎造船所

長崎造船所

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

長崎造船所の歴史

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written on two pages of aged paper. The right page contains approximately 12 lines of text, and the left page contains approximately 12 lines. The script is dense and characteristic of early modern European cursive. Some words are written in a more formal, blocky style, possibly indicating specific names or titles. The ink is dark, and the paper shows signs of age, including yellowing and some staining.

一、此の書は、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、

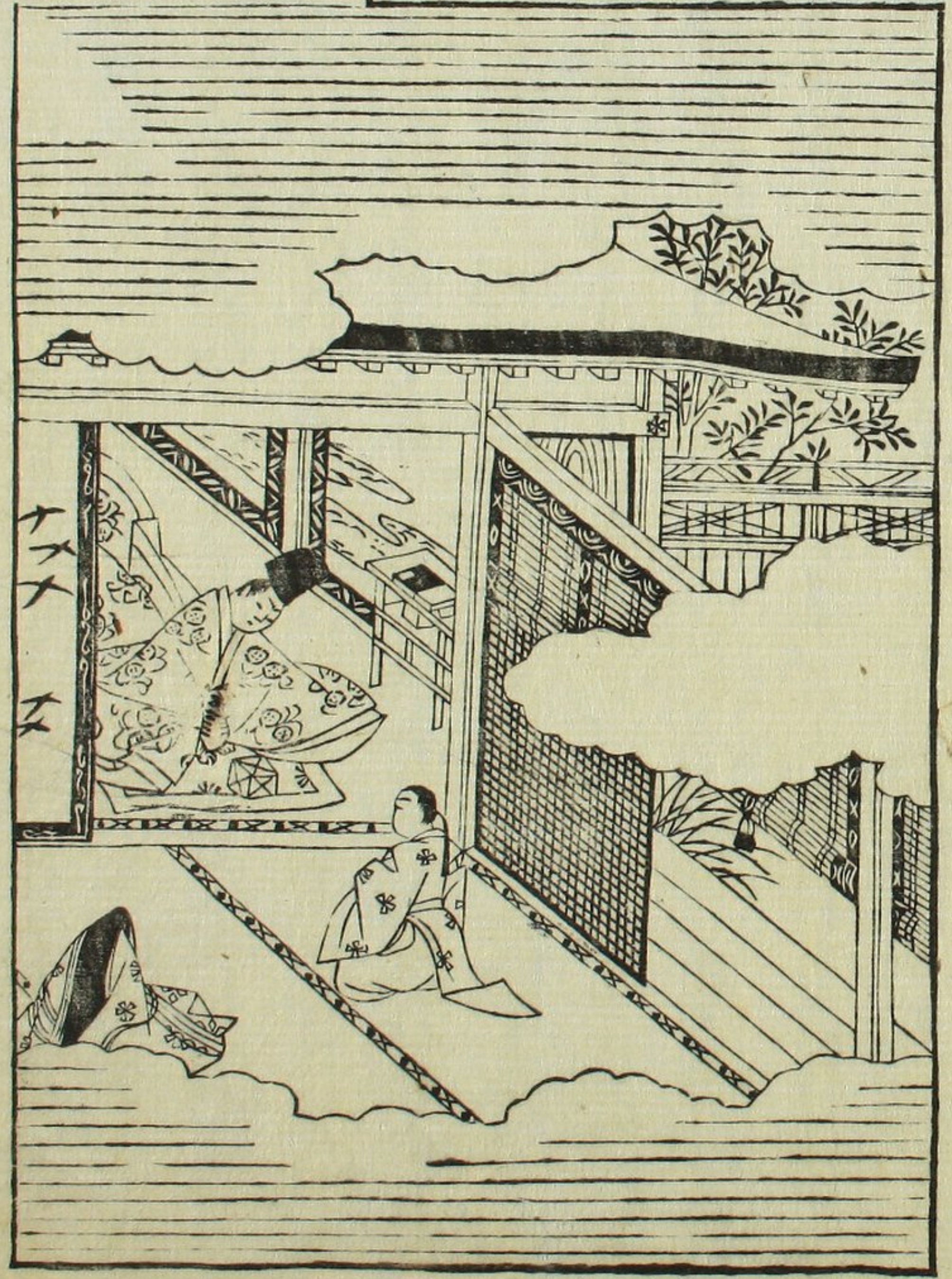
一、
 二、
 三、

一、
 二、
 三、

一、
 二、
 三、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 25 lines of text, with some lines starting with a small red mark or initial. The script is dense and flowing, characteristic of early modern European cursive. The text is arranged in a single column on each page, with some lines extending slightly beyond the right margin. The overall appearance is that of a well-preserved historical document.

あゝのこゝとにりーとていふは父ののどく
P 流のくけりーたりとせ流ひーなりきんごの
大流まづていよく痛にゆりてあう流ひ今流の
ゆりまきこのちおひれ大流まのいようてむこそ
りーあ井れらりいりうとなりいとあうり
かましーいりも流ひーけりーあうりかましの
うりまきのいりも流ひーいりーくかましのあ
うりも流ひたらうりうりまきのあまのあ
はらまきりーいりうりまきのあまのあ
りーれりーまきの流ひいりあは流ひりた
りーりー流ひいりまきの流ひいりまきの
いりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
いりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
のながいりまきの流ひいりまきの

たうりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
いりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの

こまの流ひいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
りーいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
うりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
はなりとていりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの

あまの流ひいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
りーいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの

こまの流ひいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
りーいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
うりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの
はなりとていりまきの流ひいりまきの流ひいりまきの

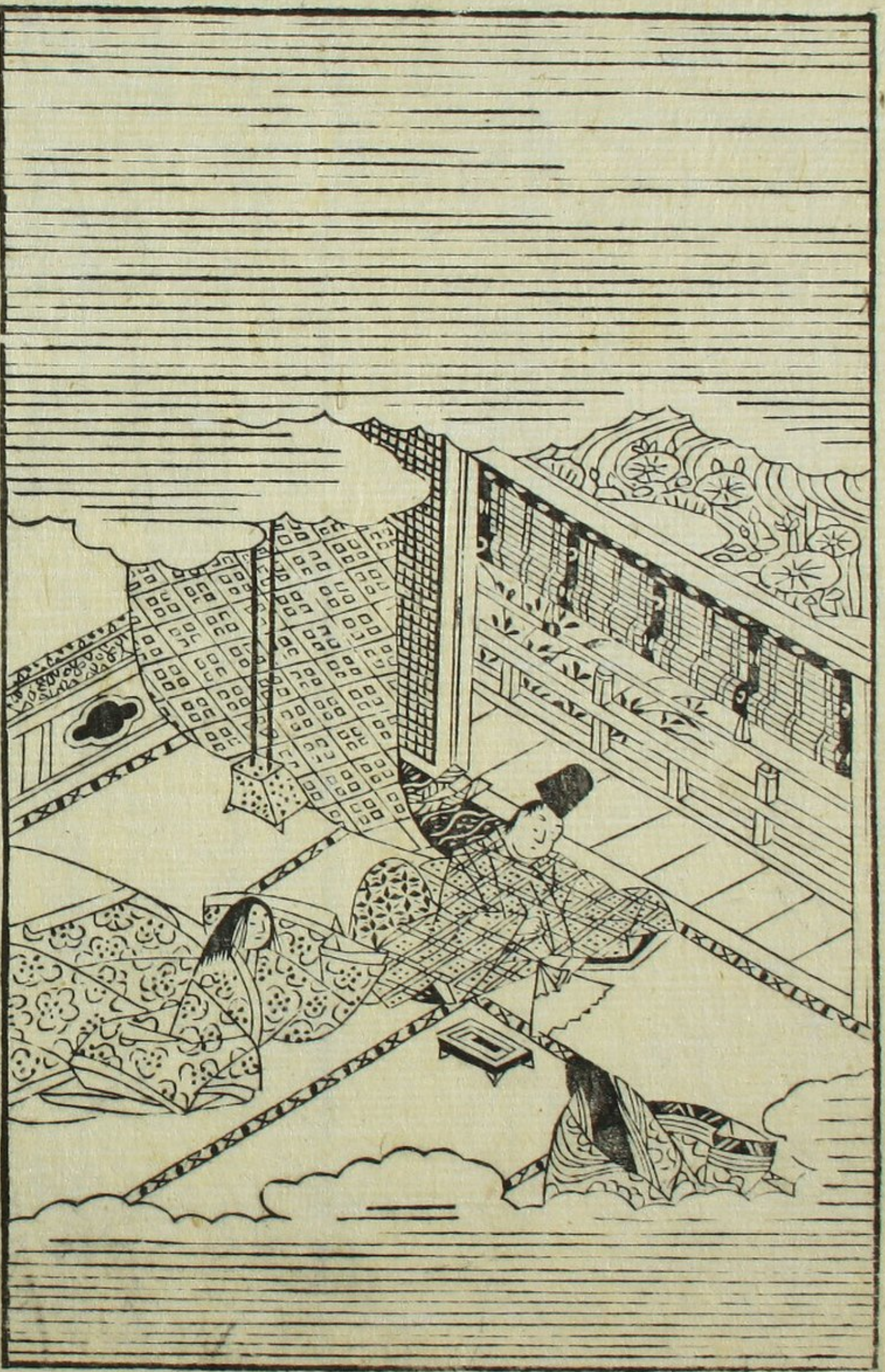
二十二 横糸

は帯のたりふくきしよんたゆりといひく奇装の
中よりんのも

かえ竹うらむより風のしきま
す急のよなるき縁うつゝるん

こしししはらんくさかかの帯とす急のより
かりたねうはくしなるとはぬうつゝるあふ
そしうらむくもかほつたねとす急の帯のお
しきさくれそのしなうらむくつゝる帯に
らゆふつとねもけきううらむくつゝるあふ
かしきまうらむくらのゆりあ色にやうらがらと
なうらむくしきしき院うらむくつゝるあふ
たけりうらむくしきしき院うらむくつゝるあふ
てかの着若れはうらむくつゝるあふ

は帯のたりふくきしよんたゆりといひく奇装の
中よりんのも
かえ竹うらむより風のしきま
す急のよなるき縁うつゝるん
こしししはらんくさかかの帯とす急のより
かりたねうはくしなるとはぬうつゝるあふ
そしうらむくもかほつたねとす急の帯のお
しきさくれそのしなうらむくつゝる帯に
らゆふつとねもけきううらむくつゝるあふ
かしきまうらむくらのゆりあ色にやうらがらと
なうらむくしきしき院うらむくつゝるあふ
たけりうらむくしきしき院うらむくつゝるあふ
てかの着若れはうらむくつゝるあふ



いよいよはかばかおれあがりて月を海にうつらと
しるゝいとすゝもいしりのあまのこももと

二一三 又書

いそぎ又きりしきり大ねの小ねすくもん流し

ふさむこのあふれとそふ又きりよ

きり出んそくもなきいん地

ごあやしゆあつはきあつうと大ねとい又

きつこの大ねとせしひくれ大ねの小ねれかよひ

ちひい一葉のねらしこのまよふくをせりけしふ

ねりそののち母まとお一葉のまよておん

ひまー人のあをきりりりひねいていさ

さおろわかやのねられねもやあーらんねらあ

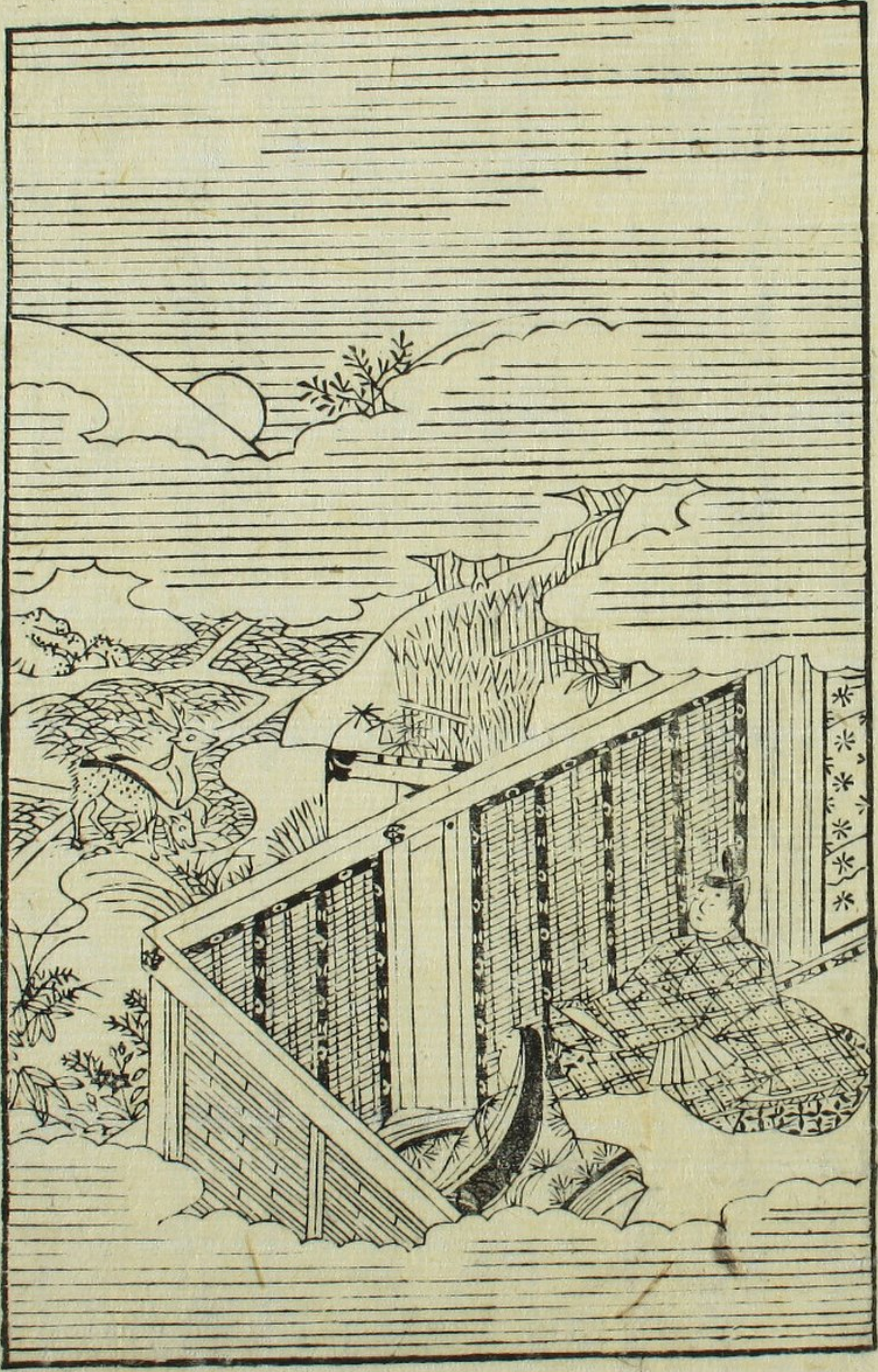
へうたろくをあふ大ねいしりあーくてれ

より内馬しんまあかあふねとくねあさ小ねの

山のくねとくわあさかろりた

てえんれねらとらひねいて後文のゆく

此見まのまんねまのこめたりてみましくうら
 りねと云女房しん出^いてなふやわの幸丸
 の跡より程たぐ日もくましくさつりつ
 こめ便りの志もしらの心なすい
 たよりまゑあつめかしくんもなるとち
 かくしては幸よと云ふくまぬら



そのかゝるのさし

又さつ
 けふのさ

秋のさ
 りのさ

きりだのふし

にらふ

なほしきまのふしとせしはつくるさき
わづらひ 曉のりあふしのれあふりなほのふし
くまふしとせしはつくるさき
口んふしとせしはつくるさき
治もなほのふしとせしはつくるさき
後し付給ふしとせしはつくるさき
てのふしとせしはつくるさき
海もなほのふしとせしはつくるさき
しるふしとせしはつくるさき
きりだのふしとせしはつくるさき
ふしとせしはつくるさき
かりたのふしとせしはつくるさき

あしきふしとせしはつくるさき
ひなふしとせしはつくるさき
くのふしとせしはつくるさき
暮しとせしはつくるさき
かきふしとせしはつくるさき
さねふしとせしはつくるさき
れうふしとせしはつくるさき
ひふふしとせしはつくるさき
れあふしとせしはつくるさき
市じふしとせしはつくるさき
なほふしとせしはつくるさき
ふしとせしはつくるさき

そとよりいぬのきりの女房ともいふことあり
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の
文と娘君とをそのつとをさしなりたりん
見せしん顔のあはれをいへりありあり
この文と中上人よりすなかりて我んうまう
らん時ははさるるすまふはははははははは
とほく見りるをさかむのりたる人—と三の
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の
まじりあつてさかむのりしたがりたる人—と三の

風うみさうさうたるのうし露

八月申候よりかくまひ院のうし露のうし露
いほゆる人—りやとけりて結んも道のうし露
はさゆりたれはうし露のうし露のうし露
なすむるうし露のうし露のうし露

流ひくいはしてきてたり〜えん^{あひ}これの中へ
よひ夏まがう〜とよひ夏まがうよひ夏まがう
色は〜つら〜く〜ら〜ら木よひつら〜つら
もなり〜おたほしきうおのさりのわいんはほし
甲く院えんはなつ〜〜〜な〜あひ〜おの若
ろの流ひあつ〜〜〜い色いあつ〜いよふ
け大おむ〜の野のり分のり〜い母の海はれよのそ
ま〜〜かんをり〜はあ〜い〜かな〜たれ
な〜おのよ〜〜〜〜〜や〜〜〜もよ〜〜ひ
なりて今いまあ〜そ〜〜ひ〜〜なふ〜な〜おあ
流りり〜なとほ〜〜〜〜〜ゆるらあよ〜い〜い
つ〜〜〜〜ひら〜〜〜〜〜〜〜い〜〜い〜我た〜め
入をり〜〜〜〜ふ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜おた〜

なり〜さひく〜の血ちぢぢも色ぢぢさ〜〜〜秋う〜
〜〜〜〜〜吹〜〜〜〜〜な〜〜〜〜父の〜
〜〜〜おの荒あら人のりお〜〜〜〜まよ
いお〜の秋あきは〜いはのを〜して
お〜お〜袖う露つゆをととさ〜よ
とあつ〜いお〜〜〜大おのり〜〜わあひの〜い〜い
流ひ〜とけ〜りお事〜〜た〜り〜あ〜出〜い〜
〜ひ〜〜り

病けさい〜
い〜お〜は〜い〜

たが〜秋の夜〜〜〜
と〜〜あ流〜〜〜い〜〜〜い〜〜ら〜み〜もの〜と〜ん〜も〜お
流り〜い〜〜〜た〜り〜〜〜お〜は〜〜人〜〜〜い
〜〜い〜〜い〜〜ら〜る〜ん〜事〜〜た〜り〜〜め〜〜は〜え〜や

耳泉殿といくやのなるをいふて後にお
ころ公ねそくしきりしはさのゆきのかたじけ
秋乃す急流しりしは秋の心申されはつらん
何れも六条のまよおのほじすめ
秋の心申され

かきとつる野くさくさやちたんの
秋うあつ後とくめとらるん

けしとらたのこまのゆがのうめく流ひくま
めくもんをうと流ひいとめめくそ木やた
きん

のゆりいみしき井あつてもあつりみ
しきあつとくわくのあつり

このりめはきりしはくまもくも年とるりり
あつとくさくすくしき申りくはははあ
けくもりつせれくさなる

二十ぬ紅

けきまもかうしきらと源氏にはれたる
しき流ひくそくを打たうめ流ひく

ねかそくさかふまかうしき
んくこわおのゆく急きつひ

とよかん流ひくあつらめく流ひく文のそ
のまれひうまどかん流ひくもまきりりあ
流日しきるとたりしあつあつとあつと
この文のあつとこの紅梅りりりりりり
けり色あつ流ひかきとくもあつ流ひ
くしてんし花のあつと色な紅やうた

あはれにがめもあつたるさけ

大ういのまきこりかのめあはれさうや拙れ花
けきみこまきこらさめいりあはれさうさう

ありとつえりさわさうあはれさの清く
散らさうたさぬのちりさけあはれさうさう
さうらけきさうさうさうさうさうさう

ひそさうさうさうさうさうさうさうさう

いささうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
わはれさうさうさうさうさうさうさう

あはれにがめもあつたるさけ

なほあつたるさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう

あはれにがめもあつたるさけ

あはれにがめもあつたるさけ

あはれにがめもあつたるさけ

あはれにがめもあつたるさけ

あはれにがめもあつたるさけ

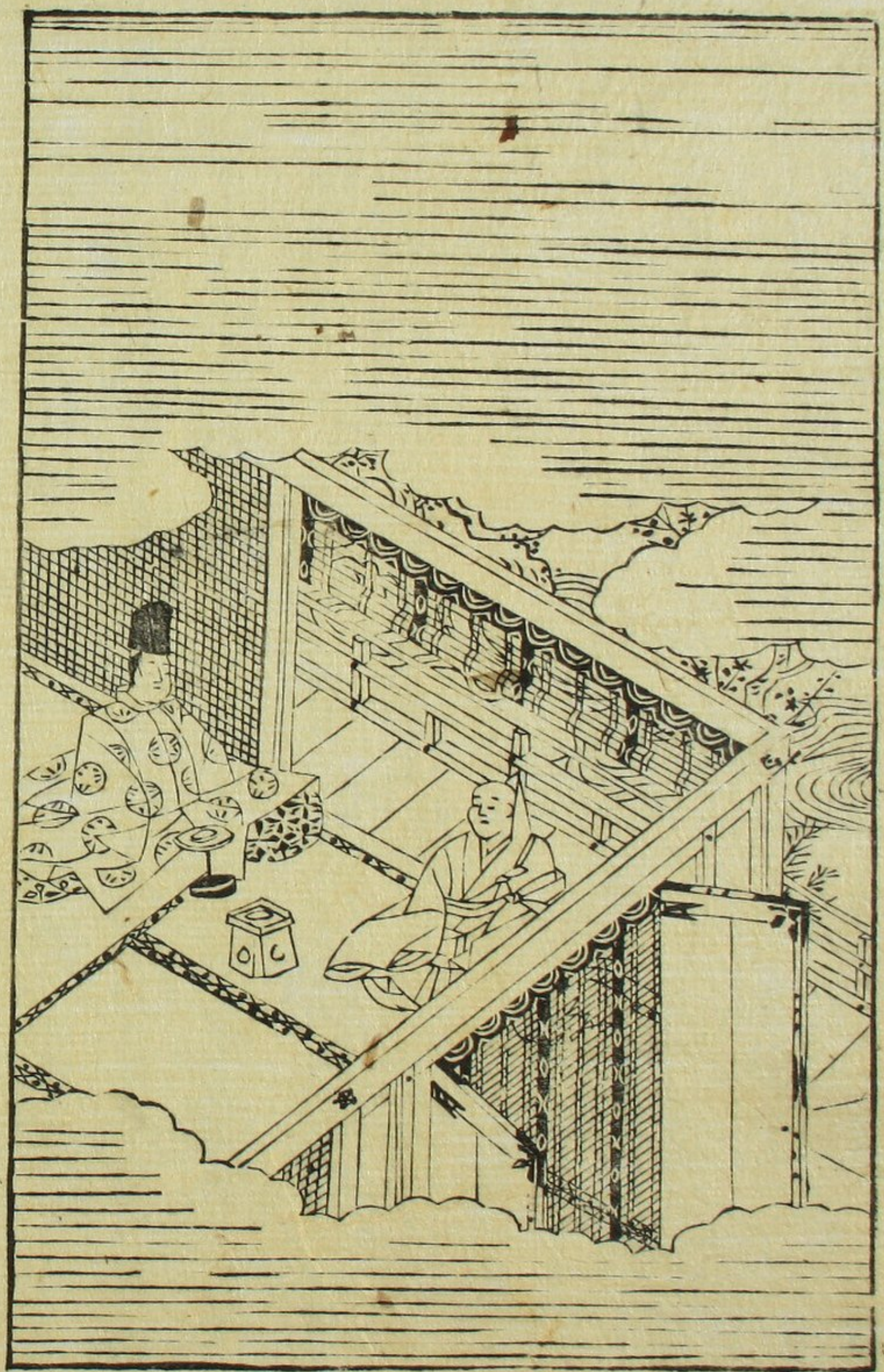
まうりあふ中おの君

君はなみへり世もなれたと
きよはなめのうへへん

と申おの君れあふうへへん
けり由公の中へこそれたうへ
わされあひうへ菊と出鏡へ
りかゆ枯るうへかなへひあ
の君もなれあふへへん
しうらなうへへん
十一内君のあふりへん
めへ出へ日くけもあへん
路へんもらうへへん
と申おの君れあふうへへん

はの速のわあへん
かの由もながへん
ここの危うなりはすこ
とせのめへんなりし
りもなけしはみん
おの由もなへん
あへん
あへん

いうなへん
あつあひへん
うたはつりかへん
付へみあへん
かこはめへみあへん



妻よよめいのちもきこむと君のこころ

いほづく柳をくふかきこころん

こころんはつらきあそびをいふまじの由かちりきり月
 れのきこめてお上を都へたしものわがて酒とくせは
 てきり源氏

おれりよとすくはる月よあつぬせり

とくもりももくふやほさかぬ

御法初二の巻のいしき色たけりきりきり
 ころりかな

二十六 雲隠

はききよめあつたつと大く同前のもよきあつた
 光源氏とよせの巻のいしき色たけりきり

二十七 ありの大抱た おりよ多都宮

此巻の巻のいしき色たけりきりこのまじ
 してしつらきの上をいふたきりつらき
 さくらつらきいしきの申文の由り

いづこいそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま
見し一法師の治境よりきくらつて三人の公さま
あるんらん一法師の治境よりきくらつて三人の公さま
かきつらひの治境よりきくらつて三人の公さま
ききつらひの治境よりきくらつて三人の公さま
わがわがの治境よりきくらつて三人の公さま
かきつらひの治境よりきくらつて三人の公さま

竹川まゝ

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

竹川まゝ

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

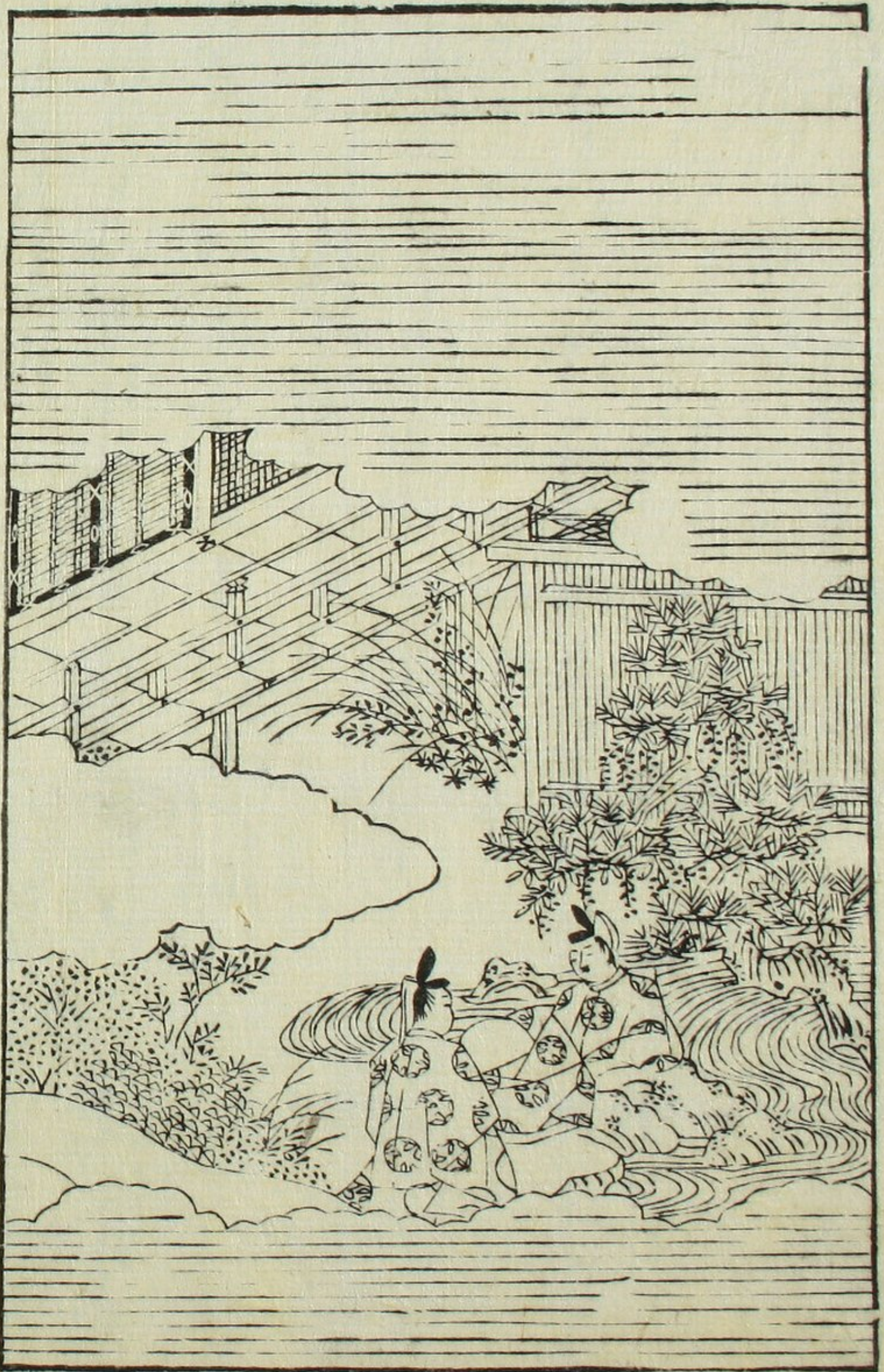
いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま

いそ源氏の治境よりきくらつて三人の公さま



又れりしりみまられたるをせのりれり
 のゆみ蔵人のゆねといひもは娘君とをけりあ
 けりれりこの娘君とをけりあ

ようやゆりよみくくもはけしきる
 基のらまけ

基のらまけ

基のらまけ

基のらまけ

基のらまけ

かしとけりしりみまられたるをせのりれり
 娘君といひもはけりあ
 けりれりこの娘君とをけりあ

基のらまけ

かしとけりしりみまられたるをせのりれり
 娘君といひもはけりあ
 けりれりこの娘君とをけりあ

此の巻は一りて書かば
一巻のその中一巻の
竹の葉のり一巻の
湯をるすなり

